

令和6年度図書館事業実績評価

守谷中央図書館

令和7年10月

評価について

令和5年度実績に対し、令和6年度の図書館事業における実績評価を実施し、検証しました。

評価内容は、運営基本方針の実現に向けた活動計画の5項目における自己評価及び総括としました。

運営基本方針の実現に向けた活動計画

- 1 資料、情報提供の充実
- 2 子どもの読書活動の推進
- 3 市民協働によるサービスの充実
- 4 多様なニーズに応えるサービスの提供
- 5 信頼できる図書館運営

総括

令和6年度は、郷州公民館図書室と北守谷公民館図書室がそれぞれ半年間の改修工事のため休室した影響で、貸出冊数、貸出利用者数、市民一人当たりの貸出数はいずれも減少しました。一方で、新規登録者数はわずかに増加し、来館者数は一昨年度同様に大幅な増加を記録しました。休室に伴い、臨時窓口を設けて運営を行った結果、十分とは言えない対応ではありましたが、公民館図書室が地域の皆様の読書習慣に深く根付いていることを改めて認識しました。

資料情報提供の充実については、中央図書館の大規模改修工事を見据え、所蔵資料を通常より綿密に精査しました。その中で、守谷中央図書館として保存すべき資料を見極め、今後の資料選定に反映させる取り組みを進めています。今後も書籍・雑誌に加え、電子書籍やデジタルアーカイブを含めたすべての資料群について、バランスを考慮した蔵書構成の構築に努めてまいります。

子どもの読書活動の推進では、ボランティアや関係各所の協力を得て、多様な形式のイベントを組み合わせ実施できました。学校図書館との連携業務においては、茨城県立図書館の「学校図書館支援図書貸出パック」を積極的に活用し、授業支援のための資料提供に努めました。学校図書館の蔵書充実が進んでいることに加え、図書館職員によるブックトークの実施回数は前年度の35回から42回に増加するなど、連携の成果が着実に表れています。

ボランティアとの協働事業については、昨年度を上回る成果をあげました。中央図書館大規模改修工事の基本方針の一つである「快適で魅力ある空間の整備」の観点からも、これまでのボランティアや市民団体との協働をさらに深化させ、地域社会の知の拠点として一層の価値を生み出す取り組みを進めていく必要があると考えます。

中央図書館のリニューアル期間中は利用者の皆様にご不便をおかけしますが、関係各所のご協力を得ながら、図書館運営に最善を尽くしてまいります。

図書館事業実績評価

1 市民の求める図書や情報の収集、提供、保存

評価基準	R5年度実績	R6年度実績	前年比
図書資料数	426,832冊	425,485冊	↘
視聴覚資料数	18,667点	18,706点	↗
雑誌タイトル数	330タイトル	319タイトル	↘
新聞タイトル数	32紙	33紙	↗
蔵書冊数（市民一人当たり）	6.0冊	6.0冊	→
資料回転率（図書）	2.0回	1.9回	↘
地域・行政資料の受入冊数	180冊	166	↘
寄贈資料受入冊数	793冊	976	↗
地域資料等のデジタル化（ADEAC作成件数）	5件	1件	↘
宅配サービス等登録者数	3人	2人	↘
宅配サービス等貸出点数	272点	200点	↘
外国語資料の受入冊数	61冊	45	↘
レファレンス受付件数	6,550回	6,934回	↗
県立図書館，県内公共図書館との相互貸借数	2,334冊	2,624冊	↗
国立国会図書館，他県立図書館等との相互貸借数	259冊	212冊	↘

自己評価

- ・改修工事に向け、所蔵資料の内容精査を通常よりも綿密に実施したことにより除籍数が増えたため、図書資料数が減少しました。
- ・寄贈資料が増加しましたが、地域・行政資料、外国語資料の受入冊数はやや減少しました。
- ・ADEAC（デジタルアーカイブ）は、『守谷の自然誌』を公開しました。資料の形状やページ数、図版や写真の量などにより作成費に違いが生じるため、昨年度の5タイトルに対し1タイトルの作成のみとなりました。
- ・レファレンス受付件数の昨年度実績が大幅に減少したことを受け、入力忘れ等がないように周知徹底したことにより、件数が大幅に増えました。
- ・相互貸借の全体件数が増加しましたが、内訳としては借受及び貸出ともに増加した結果です。借受及び貸出のバランスが取れているという結果を考慮すると、資料の選定に問題はないと判断します。

2 未来を担う子どもたちの読書活動の推進と、学習活動の支援

評価基準	R5年度実績	R6年度実績	前年比
読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施	1回	2回	↗
子ども向け行事開催数	16回	16回	→
子ども向けの資料案内の作成数	12件	12回	→
図書館職員（スタッフ）によるおはなし会の実施回数	6回	5回	↘
ボランティアによるおはなし会の実施回数	226回	213回	↘
学校への団体貸出冊数	6,265冊	5,599冊	↘
学校図書館（相互利用）への貸出冊数	160冊	112冊	↘
ブックトークの実施数	35回	42回	↗

自己評価

【子どもの読書活動の推進】

- ・毎年恒例の子ども読書週間に合わせ、絵本作家講演会「いりやまさとし先生とあそぼ！」を開催しました。今回も多くの方にご来場いただき大変好評でした。秋には茨城県立図書館主催の「県立図書館読み聞かせ出前講座」を当館視聴覚室で実施し、守谷市を含む県内で活動するおはなしボランティアなどが参加しました。
- ・子ども向け行事では、国際交流員による英語・ドイツ語のおはなし会や「暗闇で光るスライムを作ろう」「図書館ナイトツアー」「ぬいぐるみのおとまり会」などを開催し、乳幼児から学童まで幅広い年齢層の参加がありました。中でも光るスライム作りには応募が多数あり、大変好評を得ました。
- ・昨年度に引き続き、市民活動支援センターと共催で「わんちゃんと一緒に読書」を開催しました。また、教育指導課と連携し、守谷市に勤務するALTによる英語のおはなし会「English story time」も実施しました。
- ・ボランティアによるおはなし会の開催回数は、ほぼ昨年並みでした。

【中央図書館との連携による学校図書館の充実】

- ・小・中学校へのブックパックを含む団体貸出は、昨年度の6,265冊から約700冊減少しました。この減少は、年間貸出が可能な茨城県立図書館学校図書館支援図書貸出パックを積極的に活用したため、令和6年度は28パックを利用しました。
- ・学校図書館（相互利用）への貸出は112冊で、昨年度より減少しました。これは各校が児童・生徒のニーズに沿った蔵書を充実させてきたことが主な要因と考えられます。
- ・ブックトークは周知の浸透により実施回数が昨年度の35回から42回に増加しました。しかしながら、依頼の少ない学校も依然としてあるため、今後も継続して周知活動に努めます。

3 市民との協働により、市民が集い、学び、活躍できる場の整備

評価基準	R5年度実績	R6年度実績	前年比
図書館ボランティア登録数	19団体	19団体	→
ボランティアとの協働事業実施回数	10回	11回	↗
おはなしボランティア養成講座及び研修等の実施回数	4回	3回	↘
図書館ボランティア連絡会開催回数	2回	2回	→
一般向け講演会，講座等の実施回数	6回	4回	↘
展示会の開催回数	9回	12回	↗

自己評価

・ボランティアとの協働事業は積極的に実施し、昨年度を上回る成果をあげました。自然素材を使った工作や児童フロアの掲示物作成などで長年ご協力いただいていた「ヴェルデ」が、34年間の活動に終止符を打たれることになったため、展示スペースで「ヴェルデ34年間の活動」展示としおりづくりを協働で開催しました。多くの方が守谷の自然に関する知識を深めるとともに、しおりづくりを楽しみました。

・現ボランティアの育成を目的として、「パネルシアター講座」「育成講座」「人形劇講座」を開催しました。一方で、「おはなしボランティア養成講座」は、次年度に図書館の大規模改修工事が予定されており、活動場所の確保や十分な支援が困難になることが想定されるため、開催を見合わせました。

・講演会・講座については、図書館主催で「野菜作りのおもしろ話」「源氏物語と常陸の国」「パーソナルカラー講座」を開催しました。パーソナルカラー講座は、所蔵資料の利用が多いことから、読書量や図書利用の減少が懸念される青少年に図書館利用のきっかけを作る目的で実施したところ、青少年のみならず一般の方々にもご参加いただき、好評でした。

・フォトクラブ写遊の協力により、全4回の「デジタル写真教室」を開催しました。写真展示で利用者を楽しませてくださっている同クラブに対し、展示とは異なる形で活動成果を還元していただけないかとの要望を図書館から提案したところ、メンバーの皆様が真摯に検討してくださり、教室開催が実現しました。基礎学習・実践・作品の鑑賞と講評を組み合わせた充実した構成で、参加者からも高評価を得ました。教室をきっかけに会のメンバーになられた方もおり、写真技術や知識の向上に加え、新たな人間関係の構築や生涯学習の広がりにつながったと考えます。

・ボランティアや市民、庁内他課との協働による展示も行いました。先述のヴェルデの展示に加え、市内で活動するサークルのフォトクラブ写遊、守谷平和の会、守谷ネイチャーライフによる、そして守谷ひなまつり実行委員会による「第13回守谷ひなまつり」を実施しました。また、健幸長寿課主催の「茨城県認知症を知る月間」「障害者週間」、秘書課主催の「こじゅまる おたんじょうびおめでとう」「ぼく、こじゅまる展」などの展示も行いました。

4 多様な利用者ニーズに応えるサービスの提供

評価基準	R5年度実績	R6年度実績	前年比
開館日数	344日	343日	↓
新規登録者数	1,360人	1,592人	↑
来館者数	259,814人	274,876人	↑
貸出点数（全館 個人）	931,251点	897,007点	↓
貸出利用者数	217,199人	213,387人	↓
市民一人当たり貸出数（全資料）	13.2点	12.7点	↓
市民一人当たり貸出数（図書）	12.1冊	11.6冊	↓
予約・リクエスト受付件数	232,537件	227,179件	↓
団体貸出数（学校以外）	5,538冊	5,146冊	↓
インターネット端末利用回数	283回	185回	↓
電子図書館アクセス数(図書 + 雑誌)	7,580件	6,784件	↓
電子図書館閲覧数(図書)	6,570件	5,460件	↓
ナクソス・ミュージックライブラリー ログイン回数	1,732回	2,422回	↑
育児コンシェルジュ利用数（利用項目合計）	1,011回	884回	↓
読書応援タイム（託児サービス）利用数	425人	391人	↓
書籍消毒機利用回数（全館合計）	23,870回	21,781回	↓

自己評価

・郷州公民館図書室は昨年度に引き続き9月まで臨時窓口で運営しました。また、北守谷公民館図書室は改修工事のため9月から休室し、10月から臨時窓口での運営となりました。これらの影響で、貸出点数、貸出利用者数、市民一人当たりの貸出数はいずれも減少しました。一方で、新規登録者数は若干増加し、来館者数は昨年同様に大幅に増加しています。

・電子図書は221タイトルを収集・提供するとともに、電子雑誌閲覧サービスの提供や児童書読み放題パックの購入も継続しましたが、いずれのサービスも利用は減少しました。

・読書応援タイムの利用数は昨年度より減少しており、特に午後はお昼寝時間と重なることなどが原因で顕著に利用が落ち込みました。ただし、育児コンシェルジュサービスを目的に来館する利用者は多く見られるため、担当者の配置や実施時間等について再検討したいと考えています。

5 快適で信頼できるサービスの提供

評価基準	R5年度実績	R6年度実績	前年比
常勤職員に占める有資格者数（司書）	88.2%	88.2%	→
司書資格新規取得者数	0人	0人	→
研修への参加回数	15回	11回	↘
研修の受講者数	25人	22人	↘
図書館協議会開催数	4回	4回	→

自己評価

・常勤職員に占める有資格者（司書）の割合は前年度と同水準でした。内訳は正規職員が8人中7人、会計年度任用職員（週5日）が9人中8人となっています。

・研修への参加は積極的に行いましたが、参加回数は昨年度を下回りました。一方で、図書館職員等が講師を務め、会計年度任用職員を対象に日常業務に直結した内部研修を実施しました。

・図書館協議会は年度内に4回開催しました。年度当初に着手した大規模改修工事の基本設計業務に関しては、市民の意見を反映した基本設計概要（案）作成にあたりご意見をいただきました。また、基本設計概要（案）のパブリックコメント実施の過程では、市民から寄せられた意見に対する市の回答(案)について、委員の皆様からご意見をいただきました。

令和6年度参加研修一覧

- ・「公共図書館の役割とサービスの展開の方向」講師：田村俊作氏（石川県立図書館館長）
- ・TRCブックフェアセミナー「DK社50周年記念 図鑑の楽しみ方教えます！」
- ・図書館総合展2024 KCCS オンラインフォーラム Webセミナー「図書館DXを実践へ」見逃し配信
- ・茨城県立図書館（茨城県図書館協会共催）第二回初任者研修
- ・図書館総合展2025 KCCS オンラインフォーラム Webセミナー「図書館DXを実践へ」見逃し配信
- ・「知的障害のある子どもたちへの読書サポートー生涯にわたる読書支援を視野に入れてー」
- ・茨城県図書館協会第1回児童サービス研修会「ブックトーク研修」
- ・茨城県図書館協会第一回県南地区部会研修
「読書バリアフリーの理論と実践～近年の動向から実際の取り組みまで～」講師：野口武悟氏（専修大学文学部教授）
- ・茨城県図書館協会第2回ステップアップ研修会「効果的なチラシ・ポスターの作成について」
- ・TRCブックフェアセミナー「選書力アップと棚作り・イベント構築について話そう」
- ・第2回児童サービス研修「海外の事例紹介を中心としたヤングアダルトサービス研修」
- ・茨城県図書館協会第二回県南地区部会研修
「21世紀における公共図書館の経営と考え方」講師：小泉公乃氏（筑波大学図書館情報メディア系准教授）
- ・茨城県図書館協会図書修理（絵本）研修会 講師：キハラ株式会社 川人拓氏

【参考】

内部研修（7回 139人）

- ・システム更新に伴う新茨城県図書館情報ネットワーク・オンライン研修会
- ・認知症サポーター養成講座 講師：健幸長寿課職員
- ・Tooli研修 講師：株式会社図書館流通センター職員
- ・予約リクエストカードの書き方と検索のヒント研修*
- ・対人関係構築講座（職員研修資料等を参考に）*
- ・棚コントロール（図書館の規則・基準等、選書・除籍に関する過去の事件等）*
- ・利用者登録注意点の再確認；ポスター・チラシの受取について*
- *図書館職員が講師となり、会計年度任用職員に対して実施したもの。